

流域治水対策のフォローアップについて

【馬淵川水系・岩木川水系】

流域治水対策のフォローアップ

■今年度の主な取組更新内容

- ・立地適正化計画に基づく住居や公共公益施設等の移転誘導【二戸市】
- ・ため池ハザードマップの作成・周知【八戸市】
- ・南部町役場の高台移転【南部町】
- ・防災行政無線室の改良に伴う、可搬式(タブレット)操作卓の導入・整備【五戸町】
- ・防災行政無線のデジタル方式による運用の効率化【五所川原市】
- ・自主防災組織を対象とした防災体験研修会の実施【板柳町】
- ・国道高台への避難階段整備の推進【青森河川国道事務所・大鰐町】 など

その他の流域治水対策についても[各機関にて継続実施中](#)

■今年度新たに追加した取組

- ・浸水想定区域内の町道嵩上げによる輸送道路の確保【南部町】
- ・公共下水道全体計画区域を対象とした内水ハザードマップの作成・周知【八戸市】
- ・まるごとまちごとハザードマップ標識の設置【五戸町】
- ・線状降水帯に関する情報を段階的に提供【青森地方气象台】
- ・事業継続(BCP)対策強化の一環として、大規模水害に備えた止水壁の設置
【民間企業(弘前航空電子(株))】

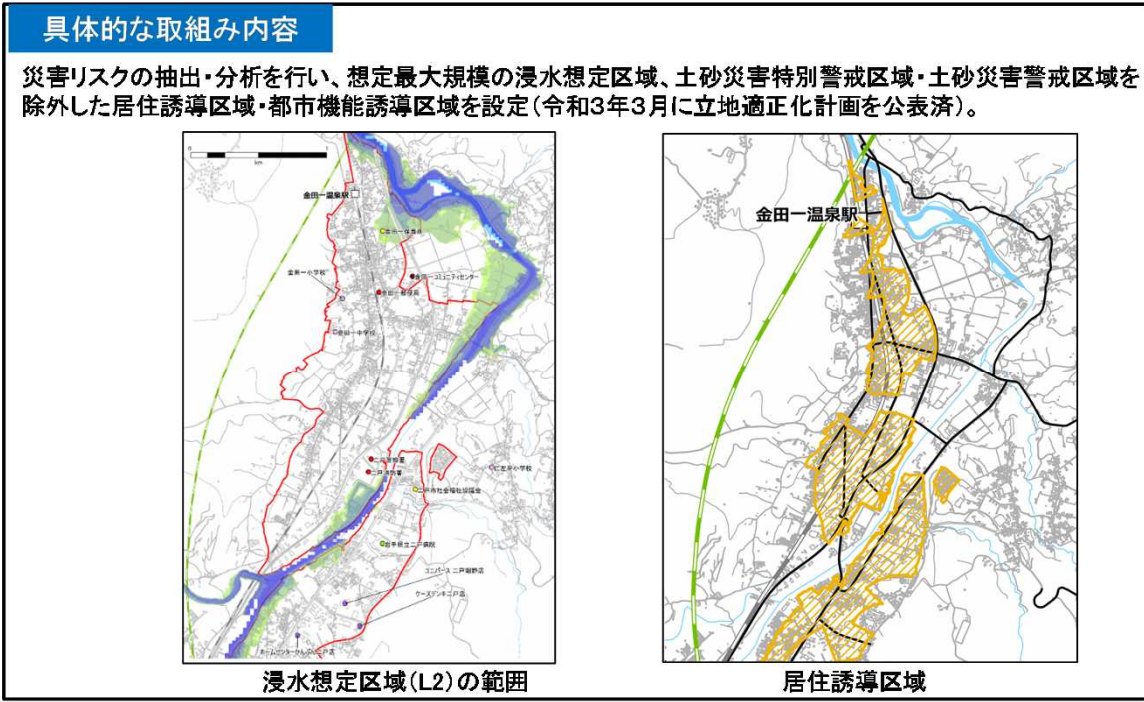
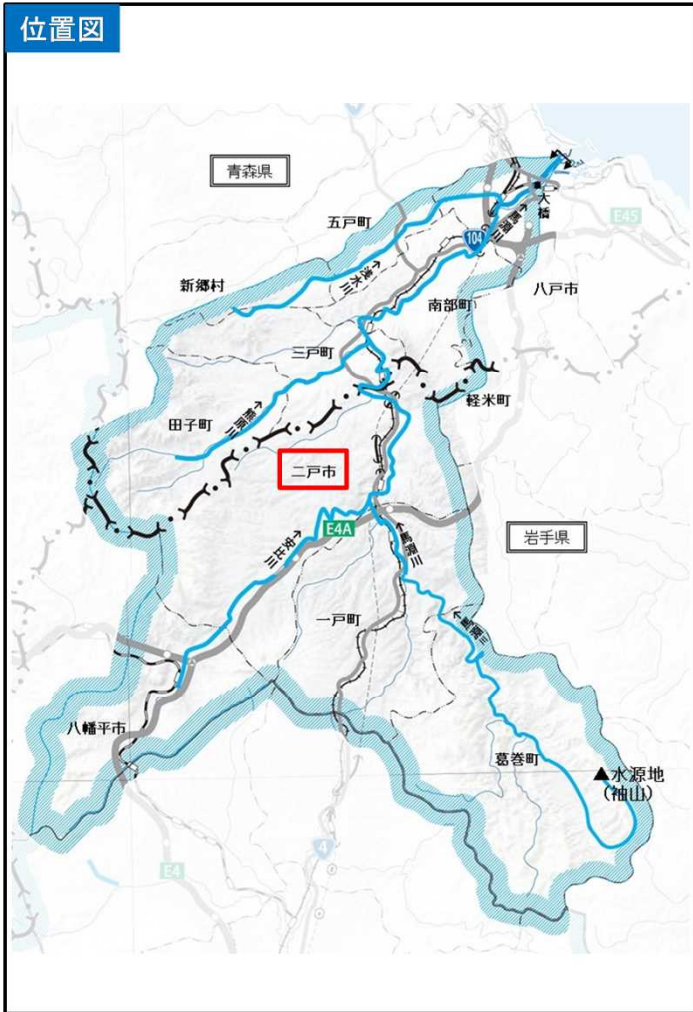
主な取組の更新内容

②被害対象を減少させるための対策

二戸市

○災害リスクを考慮した住居や公共公益施設等の移転誘導

- ・令和3年3月に、立地適正化計画を策定・公表済。
- ・災害リスクの高い区域は、居住誘導区域・都市機能誘導区域から除外しており、浸水想定区域から住居や公共公益施設等の移転誘導を進めていく。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程				
取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画に基づく住居や公共公益施設等の移転誘導	実施中		

主な取組の更新内容

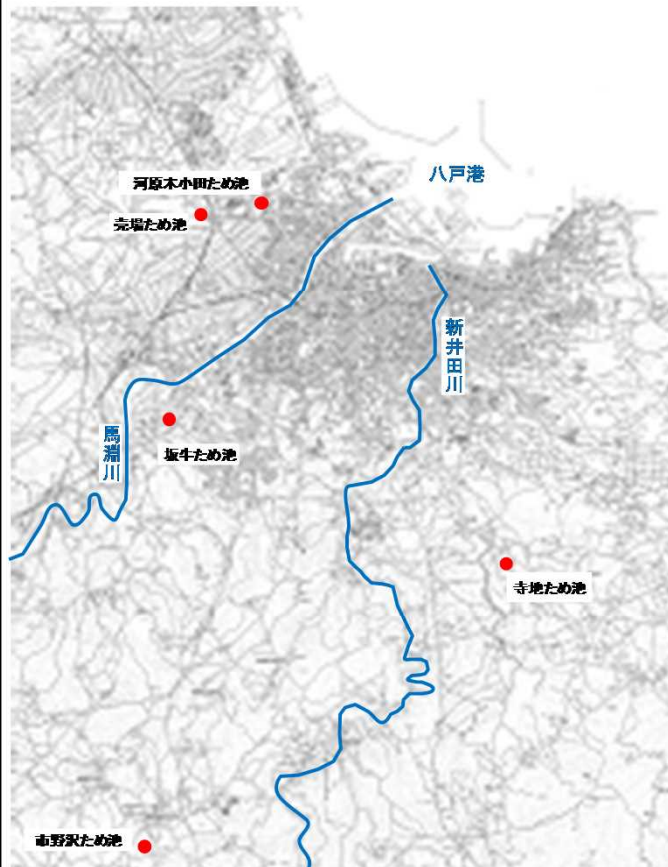
③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

八戸市

○ため池ハザードマップの作成及び関連地域への周知

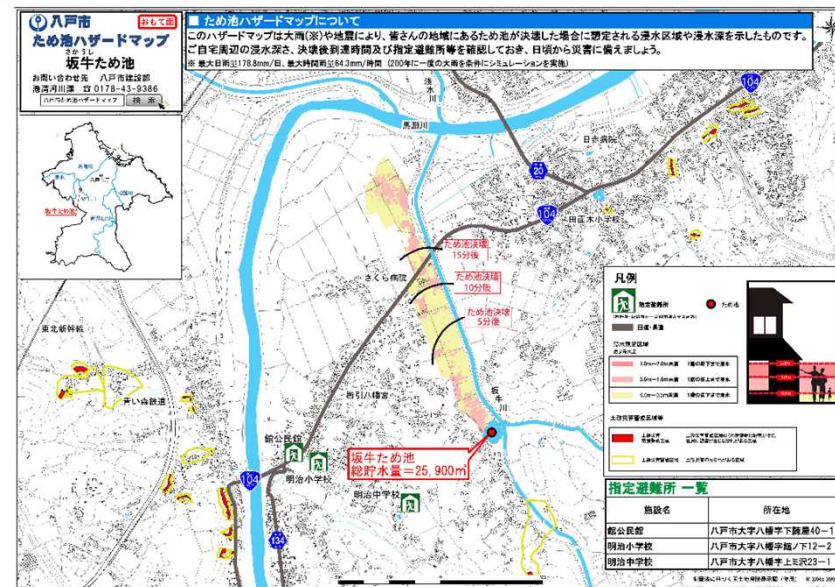
台風や大雨時等における洪水被害の軽減を目的として、防災重点農業用ため池が決壊した場合に想定される浸水区域や周辺の避難場所等を内容とした、ため池ハザードマップの作成・配布を行い、洪水リスクや避難場所等を周知します。

位置図



※市内の防災重点農業用ため池(令和4年1月時点)

具体的な取組み内容



【八戸市ため池ハザードマップ(坂牛ため池)】

実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	避難場所や経路に関する情報の周知	実施中		

主な取組の更新内容

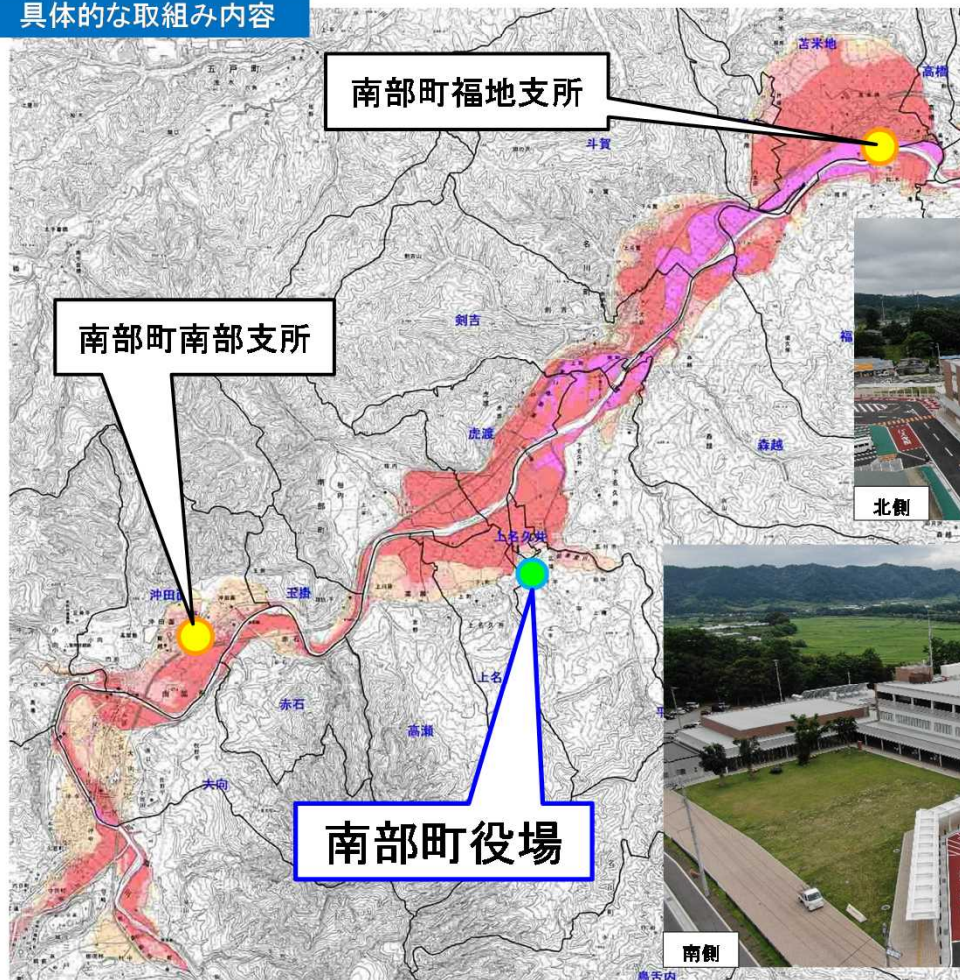
南部町

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○浸水想定区域にある役場庁舎を高台へ統合移転し、防災機能の強化を図る。

旧本庁舎、旧分庁舎ともに浸水想定区域に立地していた施設を、高台へ新庁舎を統合移転し、防災拠点の機能強化を図った。

具体的な取組み内容



南部町役場を建設 令和3年8月2日 業務開始



主な取組の更新内容

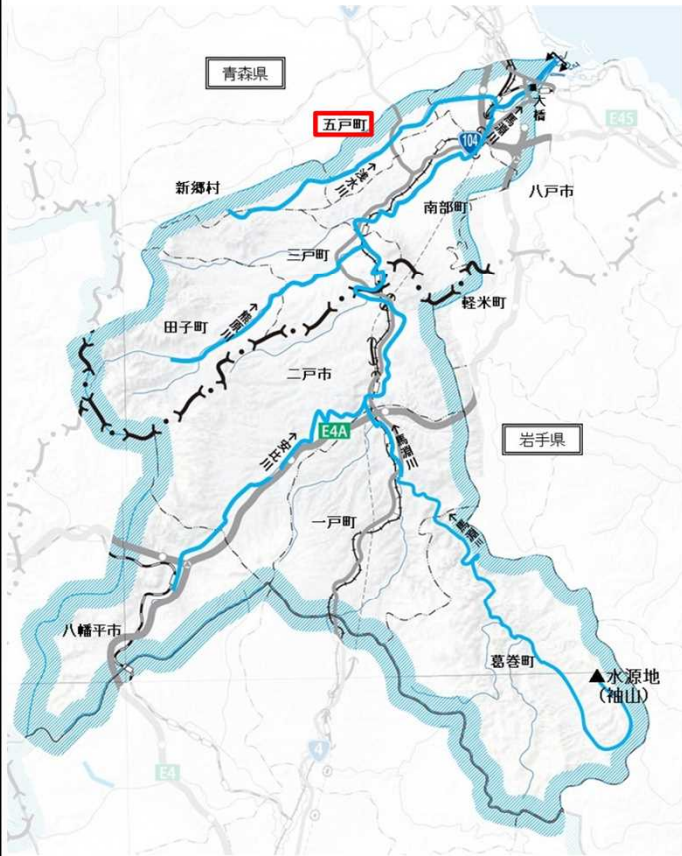
③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

五戸町

○防災行政無線の改良

防災無線室の操作卓の改良に伴い、可搬式(タブレット)操作卓を導入、整備し、多様な通信手段を確保します。

位置図



具体的な取組み内容

【操作卓の改良（令和3年度）】

親局操作卓とほぼ同等の機能を有する、防水・防滴・防塵・耐衝撃性に優れた10インチタブレット操作卓を導入・整備します。

庁舎内外を問わず、遠隔操作で緊急放送をすることができ、有事の際の多様な通信手段の確保につながります。

防災無線室・操作卓



タブレット操作卓



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	防災行政無線の改良	実施中		

主な取組の更新内容

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

五所川原市

○防災行政無線のデジタル化、運用の一体化を実施

市浦地区、金木地区の無線は、設置年によりアナログ無線、デジタル無線がそれぞれ配備されていたことから、アナログ無線の更新時期を迎えるにあたり、デジタル方式に統一した。これまで異なっていた運用も一体化され、効率的に情報を提供する体制が構築された。

位置図

「岩木川水系」



具体的な取組み内容

設置地区	現状	更新後
金木地区	アナログ	デジタル (MCAシステム)
市浦地区沿岸	デジタル(MCAシステム)	
市浦地区内陸	アナログ	

・各地区へ、各支所から各地区へ放送しなければならなかった



・デジタル方式に統一され、本庁、金木支所、市浦支所どこからでも金木地区、市浦地区へ放送することが可能となり効率的になった。

※運用開始 令和3年10月1日

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	防災行政無線の改良	実施中		

主な取組の更新内容

板柳町

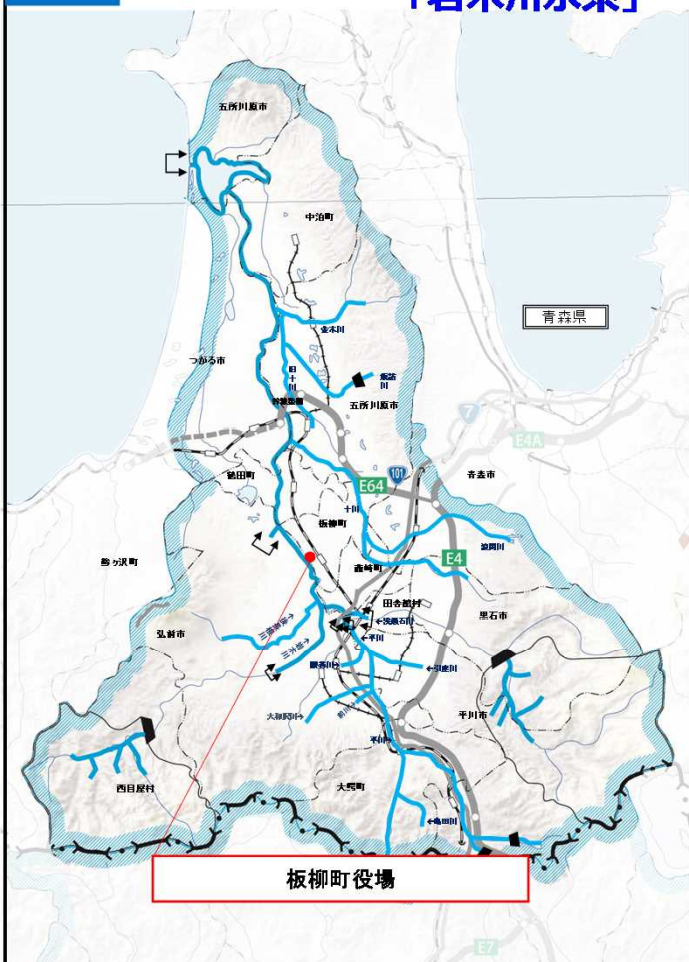
③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○町民の防災意識向上のための講習会等開催に向けて検討を進める。

令和2年度に作成した洪水ハザードマップを活用し、町民の防災意識向上を図る。

位置図

「岩木川水系」



具体的な取組み内容



・想定最大規模による浸水想定区域図を元に令和2年度作成したハザードマップの每户配布を実施した。

令和3年11月に県の協力を得て、町民の更なる防災意識向上のため、自主防災組織を対象に防災体験研修会を開催した。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	住民の防災意識向上のための取り組み	実施済		

主な取組の更新内容

②被害対象を減少させるための対策

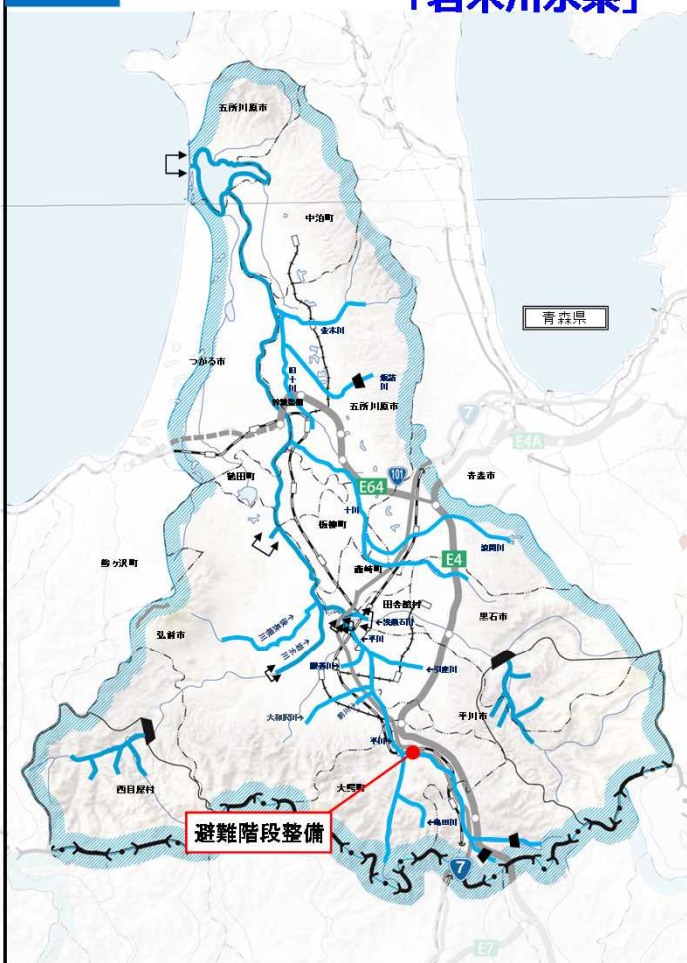
青森河川国道事務所・大鰐町

○道路高台等への避難場所の整備・確保

- ・洪水の浸水想定より高い道路区間を抽出し、洪水時の緊急避難場所として活用していくために、避難施設等の整備に向けて自治体と調整を開始。
- ・岩木川流域では、大鰐町に位置する国道7号において、住民の避難経路となる避難階段を国道沿いに整備済。

位置図

「岩木川水系」



具体的な取組み内容



実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	道路高台等への避難場所の整備・確保	実施済		

新たに追加した取組

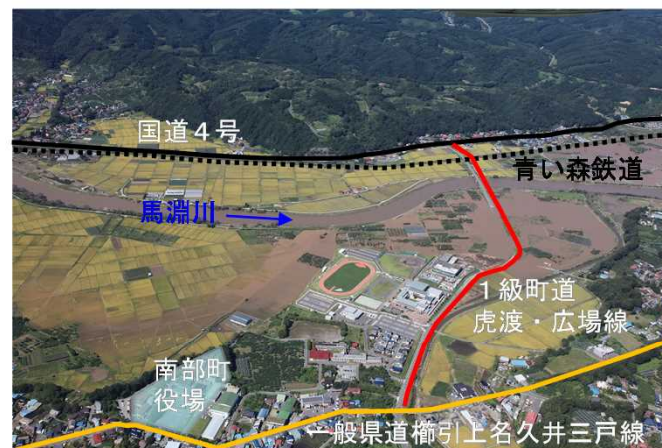
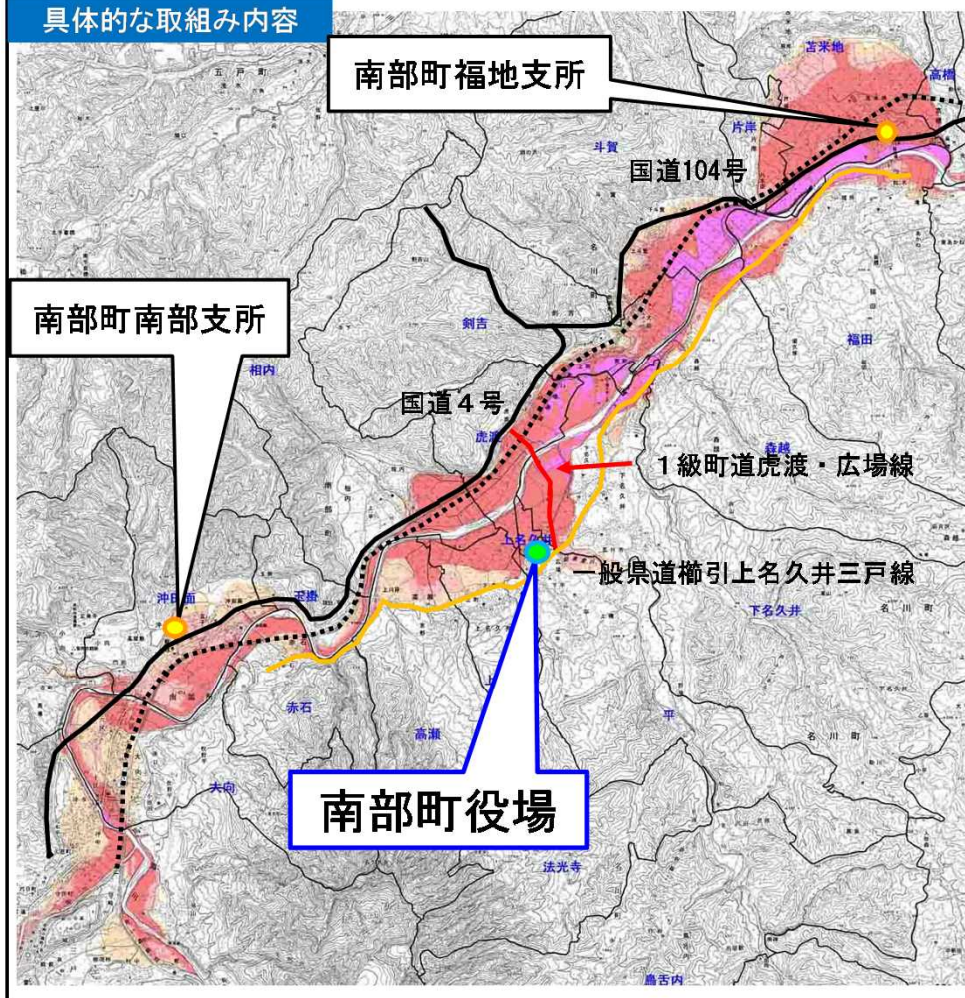
南部町

②被害対象を減少させるための対策

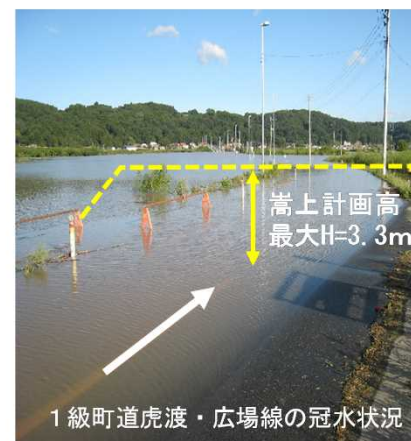
○浸水想定区域にある町道をかさ上げし、輸送道路を確保し、防災機能の強化を図る。

国道4号から一般県道櫛引上名久井三戸線を結ぶ1級町道虎渡・広場線をかさ上げし、輸送道路を確保して防災機能強化を図る。
かさ上げに使用する土砂は、他機関の工事で発生する土砂等も有効的に活用しながら、整備を進めていく。

具体的な取組み内容

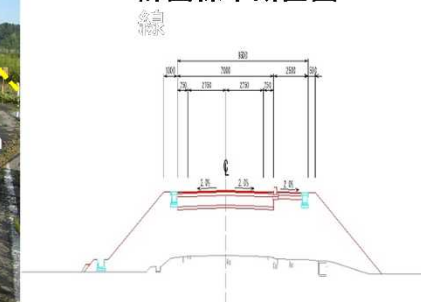


平成25年9月台風18号洪水の浸水状況



1級町道虎渡・広場線の冠水状況

計画標準断面図



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

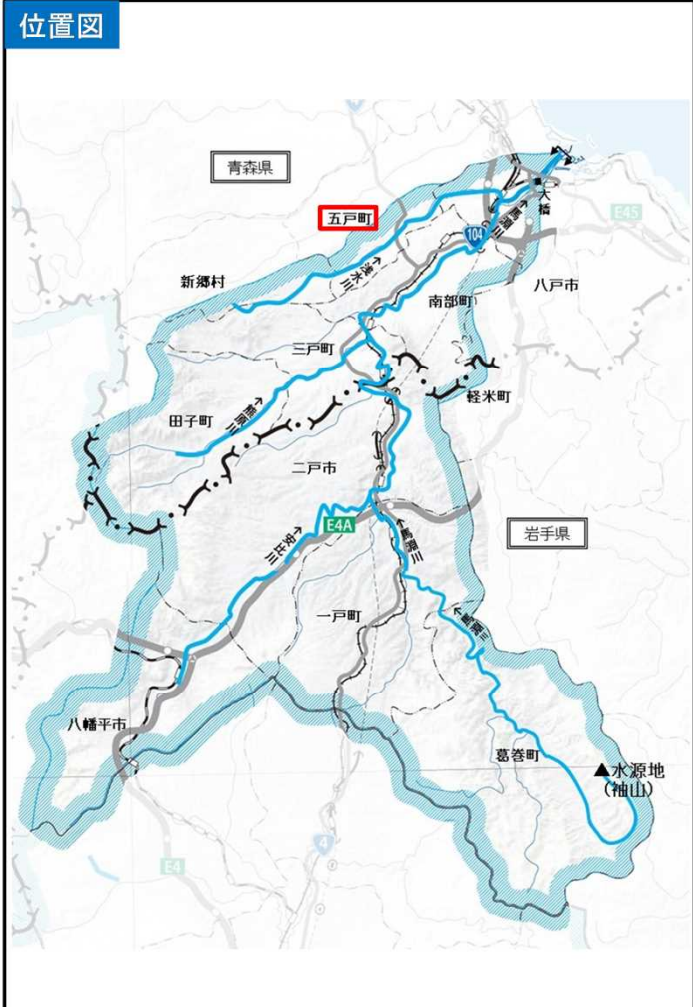
新たに追加した取組

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

五戸町

○まるとまちごとハザードマップ標識の設置

平時から水防災への意識を高めるとともに、浸水深・避難所等の知識の普及・浸透等を図り、発災時には命を守るための住民の主体的な避難行動を促し、被害を最小限に止めることを目的とし、まるとまちごとハザードマップ標識の設置を行います。



具体的な取組み内容

【避難所標識・誘導標識等設置（令和3年度）】（町内15避難所）



設置イメージ(町立公民館)



盤面イメージ

※標識については夜間停電時にも視認可能な蓄光素材、再帰性反射素材を採り入れたものとする。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程				
取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	避難所等に関する情報の周知	実施中		

新たに追加した取組

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

青森地方気象台

○線状降水帯に関する情報提供

- ・線状降水帯の予測精度向上の取組を順次進める。
- ・線状降水帯による集中豪雨に対する情報を段階的に提供。

具体的な取組み内容

交通政策審議会気象分科会提言「2030年の科学技術を見据えた気象業務の在り方」に基づき、線状降水帯の予測精度向上の取組を順次進めており、令和2年7月豪雨を受け、これらの取組を加速させるとともに、予測技術の精度を踏まえた線状降水帯による集中豪雨に対する情報を段階的に提供 → **国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく**

令和3年6月17日
から提供開始

線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起

- 線状降水帯の事前予測が難しい中、レーダー等による観測で、線状降水帯が発生していることを検知した際に情報を発表
- 大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する図情報の例



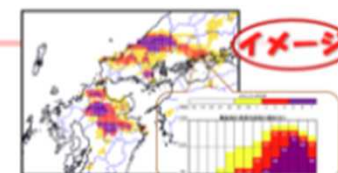
○大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※「雨雲の動き」(高解像度降水ナウキャスト)の例。

最新の科学的知見により解析・予測技術を向上し、徐々に精度を上げていく

令和4年以降の改善

- 半日前から線状降水帯等による大雨となる可能性についての情報を提供 (令和4年)
- 次期気象衛星への最新技術の導入やスーパーコンピュータの高性能化等を通じて、監視・予測技術の精度を向上
- 半日前から線状降水帯に伴う集中豪雨を高い確率で予測し、これに伴う災害発生危険度を面的に提供 (令和12年までに)



新たに追加した取組

民間企業

②被害対象を減少させるための対策

○民間企業による事業継続(BCP)対策強化の実施

- ・弘前航空電子(株)は、事業継続(BCP)対策強化の一環として、大規模水害に備えた止水壁の設置を中心とする浸水対策工事を実施。
- ・工場内への浸水を防ぎ、災害後の迅速な事業再開と生産用部材等の流出防止を図る。



具体的な取組み内容

(現状)
近年、各地で頻発する大規模水害に備えて、航空電子グループ全体のBCP対策を見直し、強化を進めるために各生産拠点における被災リスクの再評価を実施。

○弘前市における過去の水害事例を調査すると共に、国土交通省作成のハザードマップを踏まえ検討した結果、主力生産拠点である弘前航空電子株の浸水対策を決定。

○総延長約1,200m、高さ3mの止水壁、及び止水門4箇所等を設置することで、想定される最大規模の水害時においても、工場内への浸水を防ぎ、災害後の迅速な事業再開と生産用部材等の流出防止を図る。また、壁の圧迫感を和らげる対策として、市内の小中学生の絵画作品をパネル化し掲示した。

- 浸水対策概要
- 【止水壁】 総延長 約1,200m×高さ3m
 - 【止水門】 幅10m×高さ3m：2門
幅 8m×高さ3m：2門

止水壁(L=約1,200m)設置



施策の実施工程

区分	対策	工程		
		短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	民間企業による事業継続(BCP)対策強化の実施	実施済		
		※令和2年9月完成		